

慢性の痛みの理解と  
診療体制の構築に向けて  
【東北ブロック】  
**報告書**

# 青森地区慢性疼痛講演会

日 時:2021年12月3日(金) 18:45 ~ 20:30 会 場:アートホテル弘前配信 WEB開催

参加対象:慢性疼痛に関わる全職種

2021年12月3日にオンラインで青森県慢性疼痛講演会を開催しました。今回の目的の一つは、慢性疼痛に関わる多くの方々に慢性疼痛に対する基礎的事項を理解頂くこととし、県内医療機関の整形外科、麻酔科、リハビリテーション科と介護施設に案内をしました。事前に視聴希望を募ったところ110名の方から申し込みをいただき、慢性疼痛に対して関心が深いことが理解できました。

当日は弘前市に配信会場を設定し、座長と講師2名が集合して一斉配信する形を取りました。講演を2題設定し、青森県内で慢性疼痛治療に造詣が深い弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座講師の和田簡一郎先生と同大学医学部附属病院麻酔科講師の木村太先生に講師を依頼しました。

講演会に先立ち、イントロダクションに時間を設けて、本講演会が令和3年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業であり、各地区に慢性疼痛のセンターを配置する構想を説明しました。また痛み財団が進める痛みマネージャーの資格についても説明しました。

講演については和田簡一郎先生からは慢性の痛み「どんなものか」という演題名で講演を頂き、慢性疼痛の定義や考え方などをわかりやすく説明していただきました。具体的な症例提示もあり参加者には理解しやすかった内容だったと思います。続いて木村太先生から慢性の痛み「どのように対応するか」について講演を頂きました。専門である薬物治療やブロック治療を中心に慢性疼痛の治療について非常に分かりやすい説明をいただきました。

(八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也)

令和3年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (東北地区)  
慢性の痛みの理解と診療体制の構築に向けて

対象:青森県内の医療従事者、福祉、介護、その他の慢性疼痛に携わるすべての職種

青森地区講演会 完全WEB<ZOOM開催>

2021年12月3日(金) 18:45-20:30

参加費 先着500名 無料 11/30次締切 下記QRコードより 受付してください。

イントロダクション 18:45-18:50 八戸市立市民病院整形外科長 沼沢 拓也 先生

講演1 慢性の痛み「どんなものか」 18:50-19:40 弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座講師 和田簡一郎 先生

講演2 慢性の痛み「どのように対応するか」 19:40-20:30 弘前大学医学部附属病院麻酔科講師(診療准教授) 木村 太 先生

主催 厚生労働省令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業(東北地区) 八戸市立市民病院整形外科  
共催 弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座 弘前大学大学院医学研究科麻酔科講座

参加申込 <https://forms.gle/qzjK55S1JRoJj4V8>  
11/30夜まで上記QRコードもしくはアドレスにアクセスして申し込みください。

問合せ先 八戸市立市民病院整形外科 沼沢 E-mail: numasawatakuya@yahoo.co.jp

# リハビリ職種のための慢性疼痛診療研修会(オンライン)

日 時:2022年2月11日(金) 13:00 ~ 17:20 会 場: 八戸グランドホテル内TKP八戸配信 WEB開催

参加対象:青森県のリハビリテーションスタッフ

リハビリテーション職種を対象とした慢性疼痛診療研修会を2022年2月11日に開催しました。会場での集合型研修会の開催を進めていましたが、コロナウイルスの蔓延により、オンライン研修会に切り替えての開催となりました。

定員募集30名は満員となり、最終的には当日都合が悪く参加出来なかった2名を除く28名のリハビリテーション職種の方が参加し、5つのグループに分けてグループディスカッション形式で行いました。

研修会はこの事業の説明およびグループに分かれてのアイスブレイクの後に5つの講義とグループディスカッションを行いました。

研修会後に参加者に4段階アンケート

(①満足②やや満足③やや不満④不満)評価を行い、以下に結果を示します(n=25)。

司会進行	①満足 88%	②やや満足 12%
時間配分	①満足 52%	②やや満足 32%
	③やや不満 16%	
講義の内容	①満足 76%	②やや満足 24%
グループディスカッション	①満足 64%	②やや満足 36%
ファシリテーター	①満足 92%	②やや満足 8%
研修会全体	①満足 80%	②やや満足 20%

アンケート結果から多くの参加者の方が今回の研修会について満足が得られたことが分かりました。一方で時間配分に不満を感じていた方もおり、もう少し時間を取ってディスカッションする必要があるかもしれないと思いました。今後同様の研修会があった場合にほとんどの方がまた参加したいとの希望があり、オンラインでの研修会の有効性を感じる事が出来ました。

厚生労働省 令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業(青森地区)

## リハビリ職種のための慢性疼痛診療研修会 オンライン研修会

2022年2月11日(金・祝) ZOOM開催

13:00 - 17:20 ※12:30サイトオープン

対象 青森県のリハビリテーションスタッフ

### プログラム

13:00~13:10 開会の挨拶	八戸市民病院・医師 沼沢拓也
13:10~13:20 アイスブレイク(自己紹介)	
13:20~14:00	青森労災病院・医師
講義1.「慢性疼痛の治療」	油川修一
14:00~14:40	八戸市民病院・理学療法士
講義2.「慢性疼痛患者に対する検査・測定」	石村慶太
14:40~15:20	星総合病院慢性疼痛センター・理学療法士
講義3.「慢性疼痛患者に対する運動療法」	二橋健司
15:40~16:20	東北文科大学・臨床心理士
講義4.「認知行動療法」	三道なぎさ
16:20~17:10	八戸市民病院・理学療法士
講義5.「症例検討」	風穴愛貴
17:10~17:20 閉会の挨拶	八戸市民病院・医師 沼沢拓也

募集定員: 30名(先着順) 事前参加申込制  
締め切り: 2022年1月28日(金)

以下のフォームあるいはQRコードより事前参加申し込みをお願いします。  
<https://docs.google.com/forms/d/1L5qRfZ67LChAGB4irwEml6wLCh7f3s6dL424>



参加登録された方には、研修会開催の1週間前に詳細をご案内させていただきます。

お問い合わせ先 運営事務局 八戸市立市民病院リハビリテーション科(担当 沼沢・石村)  
連絡先 TEL 0178-72-5111(病院代表)

E-mail numasawa@hospital.hachinohe.aomori.jp

主催 厚生労働省 令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材育成モデル事業(青森地区)



(八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也)

# 八戸ペインミーティング

2018年より八戸地域の整形外科、麻酔科、メンタル科の医師が、慢性疼痛についてお互いに学び、話し合う場として八戸ペインミーティングを年3回の頻度で開催してきました。2019年からは多職種連携を目指し、リハビリテーション技師や臨床心理士も交えて幅広く意見を交わす会に拡大していきました。しかし2020年にCOVID-19が蔓延すると集会の機会が減り、2020年後半からやっとオンラインでのミーティングを開催することができました。

2021年度は2021年6月17日と10月21日にハイブリッドで開催することができ、一部の参加者は現地で意見交換することができました。一方で2022年1月20日に開催予定だった現地開催の八戸ペインミーティングは、直前になりCOVID-19の第6波の急拡大により中止することになりました。

COVID-19が落ち着くことにより、来年度以降も慢性疼痛についてさまざまな視点から数多くの専門家が集い、ディスカッション出来ることを願っております。

## 第8回 八戸ペインミーティング(ハイブリッド開催) 2021年6月17日(木) 18:50～21:00

① 演題名: 診断に迷う手の痛み、治療困難な手の痛み

演者: 青森労災病院整形外科 岩崎 弘英 先生

② 演題名: 痛み診療におけるエコーガイド下リリーステクニック

演者: 十和田市立中央病院麻酔科 深田 祐作 先生

## 第9回 八戸ペインミーティング(ハイブリッド開催) 2021年10月21日(木) 19:00～21:00

演題名: 神経障害性疼痛の治療 多職種集学的診療のすすめ

演者: 早石病院疼痛医療センター長 三木 健司 先生

(八戸市立市民病院整形外科 沼沢 拓也)

# 東北ブロック(岩手県・青森県)慢性疼痛講演会 報告

## 東北ブロック(岩手県・青森県)

### 「慢性の痛みの理解と診療体制の構築に向けて」講演会 -慢性の痛みについて-

日 時:2021年11月20日(土) 13:30 ~ 15:30 会 場:Zoomオンラインシステム

参加対象:岩手県・青森県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々

今年度は、青森県・岩手県合同の講演会として企画しました。講演1として八戸市立市民病院整形外科沼沢拓也先生に「慢性の痛みどんなものか」、講演2として岩手医科大学麻酔学講座大畑光彦先生に「慢性の痛みどのように対応するか」について講演いただきました。60分ほどの時間で、慢性の痛みについて、わかりやすく網羅的に知識を得られるような講演会を目標としました。

#### 東北ブロック(岩手県・青森県)

#### 「慢性の痛みの理解と診療体制の構築に向けて」講演会 -慢性の痛みについて- 申込状況

所属別		診療科別		職域別		県別	
所属	人数	診療科名	人数	職域名	人数	県名	人数
岩手医科大学付属病院	4	リハビリテーション科	13	医師	19	岩手県	13
岩手医科大学	3	麻酔科	6	理学療法士	10	青森県	9
栃内病院	2	緩和ケア科	3	看護師	4	福島県	7
八戸市立市民病院	2	麻酔科外来	2	薬剤師	3	宮城県	5
山形大学医学部附属病院	1	薬剤科	2	臨床心理士、公認心理師	2	山形県	3
弘前大学医学部附属病院	1	不明	2	作業療法士	2	秋田県	2
秋田大学医学部附属病院	1	総合診療外科	1	柔道整復師	1	愛知県	1
福島県立医科大学	1	整形外科	1	計	41	北海道	1
札幌医科大学	1	内分泌内科	1			計	41
国立病院機構宮城病院	1	神経精神医学講座	1				
南東北病院	1	麻酔学講座	1				
仙台医療センター	1	内科	1				
東北大学病院	1	外科	1				
米沢市立病院	1	老年内科	1				
三友堂病院	1	看護部	1				
日赤名古屋第一病院	1	一般外来	1				
南相馬市立総合病院附属小高診療所	1	薬局	1				
竹田総合病院	1	患者支援センター	1				
栢記念病院	1	臨床心理室	1				
公益財団法人 星総合病院	1	計	41				
メディカルコート八戸西病院	1						
医療法人平成会 八戸平和病院	1						
青森県立中央病院	1						
十和田市立中央病院	1						
岩手県立中部病院	1						
弘前記念病院	1						
小泉病院	1						
孝仁病院	1						
室岡医院	1						
桑名医院	1						
薬局いずみ調剤	1						
サイトウ整形外科クリニック	1						
三浦整形外科	1						
介護老人保健施設たいわ	1						
計	41						



参加者は41名でした。職域別では19名が医師で、22名は医師以外であり理学療法士の受講が多く、看護師、薬剤師、心理士など多職種が受講していました。多職種が参加していることは今後、集学的な診療体制を構築するために重要なことと感じられました。

完全WEBで行われたことで、コロナ感染に対しては安心して受講できること、遠方でも参加できることがメリットとなりました(愛知県 北海道の参加がありました)。しかし、映像や音声の乱れの懸念はあり、WEB環境の安定性が求められる点は課題と考えられます。また、対面式とWEBとの差については、今後問題点が指摘されると思われますが、安心安全で開催できることが第一と考えました。

講演内容について質問やご意見はありませんでしたが、「時間内にみっちりした講演だった」との感想があり、充実していたか内容が時間に対して盛り込みすぎだったか、早口だったかなど検討が必要と思われました。今後も講演内容についてはアップデートしていくことが重要と考えました。

# 東北ブロック(岩手県)シンポジウム 報告

## 東北ブロック(岩手県)

### 「脊椎疾患の慢性疼痛治療を考える」ー慢性疼痛診療シンポジウムー

日 時:2022年1月15日(土) 13:30～16:00 会 場:Zoomオンラインシステム

参加対象:岩手県・青森県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々

講演会・研修会で慢性疼痛についての知識や対応方法を学ぶことができ、多職種にそれが拡大してきていると実感されますが、岩手県では、痛みセンターや集学的治療のシステムの構築が進んでいません。この点につき、今年度は岩手医科大学附属病院の現状に焦点をあてシンポジウムを企画しました。

4部門から、整形外科遠藤寛興先生、麻酔科大畑光彦先生、リハビリテーション科西村行秀先生、臨床心理室藤原恵真先生の4名の演者を招き、座長を麻酔科鈴木健二先生にお願いしました。各部門で提供できる慢性疼痛診療内容、慢性疼痛患者の診療実態、今後の問題点を提示、その後議論いただきました。脊椎疾患関連の慢性疼痛患者数は多く整形外科外来は多忙である事、麻酔科ペインクリニックでは神経ブロックや多種の鎮痛薬調節でも疼痛コントロールに難渋する患者は多いこと、リハビリテーション科からは入院して鎮痛を十分にしながらのプログラムの有用性の提示があり、臨床心理室からは、認知行動療法についてと心理士の各外来への関わり方の問題や診療報酬の問題が提示されました。

各部門の能力を十分に発揮するためには、各科の連携強化、コンサルト方法の確立、病院内でのシステムの確認と利用の工夫が必要との意見が出ました。診療場所、マンパワー、診療保険点数の請求条件などを当院の条件を考慮しながらすすめることが提案されました。

参加者はシンポジストを含めて41名で、医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士など多職種が参加されました。

慢性疼痛診療の啓蒙、人材の育成とともに、集学的治療を行えるシステムの構築も医療施設毎の条件に合わせて前進させる必要があると思われました。

厚生労働省 令和3年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業(東北地区)

### 「脊椎疾患の慢性疼痛治療を考える」

ー慢性疼痛診療 シンポジウムー

開催日時 2022年1月15日(土) 13:30～16:00 (13:00開場)

開催様式 オンライン開催 (ZoomミーティングによるWEBライブ配信)

対 象 岩手県を中心とする医療従事者

#### プログラム

- ①整形外科医の立場から  
岩手医科大学附属病院整形外科 遠藤 寛興
- ②麻酔科・ペインクリニックの立場から  
岩手医科大学附属病院麻酔科 大畑 光彦
- ③リハビリテーションの立場から  
岩手医科大学附属病院リハビリテーション科 西村 行秀
- ④臨床心理士の立場から  
岩手医科大学附属病院精神神経科 藤原 恵真

参加費 無料  
参加料 別途あり

参加申込方法 以下のフォームより事前参加申込みをお願い致します。  
[https://docs.google.com/forms/d/5H0eb\\_000d8ubLp2\\_WkfoUjgTn-0d882b7W0c34p\\_Zsu/edit](https://docs.google.com/forms/d/5H0eb_000d8ubLp2_WkfoUjgTn-0d882b7W0c34p_Zsu/edit)

参加申込期間 2022年1月7日(金)まで  
アクセス方法につきましては、要知照し込み後、別途メールにてご案内いたします。

お問い合わせ先 運営事務局/岩手医科大学医学部附属学講座  
E-mail: /TEL: /

主 催 厚生労働省 令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業(東北地区)  
岩手医科大学医学部附属学講座

# 東北ブロック(岩手県・青森県)慢性疼痛診療研修会 報告

## 東北ブロック(岩手県・青森県)慢性疼痛診療研修会

日 時:2021年12月4日(土) 14:00 ~ 17:30 会 場:Zoomオンラインシステム

参加対象:岩手県・青森県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々

今年度は、東北ブロックをさらに分割してその地区の医療者にその地区の講師が中心となり研修会を企画することとなりました。八戸市は青森県ですが、医療圏としては岩手県とのつながりも多く、今回青森県・岩手県の合同研修会を企画しました。また県単独では講師側のマンパワーが足りないことも合同企画の理由であり、さらに必要な講師陣は痛み財団にお願いしました。

研修内容に関しては、痛み財団のプログラムを基本としました(チラシ写真参照)。そうすることで基本的な痛みの知識、痛みの評価方法、治療として薬物療法・運動療法・心理療法などの知識を、網羅的に短時間で修得できると感じられました。プログラムで学んだ内容をふまえて提示された症例についてディスカッションを行い知識の確認や問題点を共有することなどを目標としました。

## 東北ブロック(岩手県・青森県)慢性疼痛診療研修会・申込状況

### 所属別

所属	人数
岩手医科大学附属病院	10
八戸市立市民病院	2
三戸中央病院	2
メディカルコート八戸西病院	2
十和田市立中央病院	1
青森県立中央病院	1
東八幡平病院	1
白沢整形外科医院	1
栃内病院	1
計	21

### 診療科別

診療科名	人数
リハビリテーション部	9
麻酔科	5
整形外科	2
看護部	2
泌尿器科、皮膚科	1
緩和ケア病棟	1
薬剤部	1
計	21

### 職域別

職域名	人数
医師	7
理学療法士	7
看護師	4
作業療法士	2
薬剤師	1
計	21

### 県別

県名	人数
岩手県	13
青森県	8
計	21

令和3年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

### 東北ブロック(青森県・岩手県)慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

**日時** 2021年12月4日(土)  
14:00 - 17:30 (受付13:45開始)

**会場** Zoomオンライン会議システム

**参加対象** 青森・岩手県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々  
医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・ソーシャルワーカー・介護士・その他

- 痛みの多面的評価
- 痛みの治療  
1) 薬物療法  
2) 運動療法  
3) 心理療法
- 症例検討

参加費: 無料  
定員30名 先着順  
※事前申込必須※

参加をご希望の方は下記(QRコード)よりお申込みください  
[https://docs.google.com/forms/d/1JE8AAsIhrIvIE\\_Aq\\_m9RGSvUyAqdf7RyUW6QJ82CKQ/edit](https://docs.google.com/forms/d/1JE8AAsIhrIvIE_Aq_m9RGSvUyAqdf7RyUW6QJ82CKQ/edit)  
**申込期限: 2021年11月26日(金)**  
定員になり次第締め切ります

お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局  
Email: [itami2aidan@gmail.com](mailto:itami2aidan@gmail.com)

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 東北ブロック」  
八戸市立市民病院・岩手医科大学医学部麻酔学講座  
【共催】一般財団法人日本いたみ財団

参加者は、多職種21名が参加しました。日常、近くで働いているが会話の機会のない他部門の方と議論することは、目線の違いや患者への関わり方の違いを感じ有意義だったとの感想がありました。またファシリテータが感じ良く進行してくれたとの感想もあり、多職種の集合では重要な点と感じました。多職種研修会は集学的アプローチのためにも貴重な時間だったと感じられました。

# 【秋田県】研修会報告

## 東北ブロック(秋田県)慢性疼痛診療研修会

日 時:2021年11月28日(日) 9:30 ~ 13:00 会 場:Zoomオンラインシステム

参加対象:秋田県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々

慢性痛の原因は複雑で、ひとつのアプローチによる治療介入だけでは緩解しないことが多い。整形外科医、麻酔科医、神経精神科医、看護師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、薬剤師、心理療法士など、多職種の医療者がチームを形成し、それぞれの専門性を発揮して集学的な治療を行う必要がある(図1)。

しかし、秋田県ではこれまで、その必要性を認識しながらも、そういったチームは形成されておらず、個々の症例に対して十分な相談やカンファレンスを行う場もなかった。本研修会の位置づけを「今後、多職種でのチーム医療を形成するためのキックオフミーティングの場」と設定した。フライヤー(図2)を作成し、痛みに対する治療が行われている施設に配布し、参加者を募った。

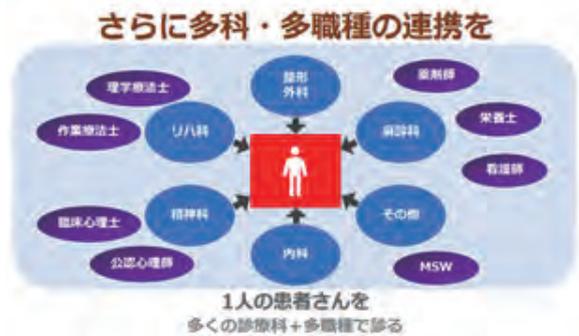


図1. 多職種による慢性痛への集学的治療<sup>1)</sup>

開催時点でのCovid-19 (coronavirus disease-19)感染状況の予測が立たなかったため、Zoomを用いた完全オンライン開催とした。ブレイクアウトルーム機能を用いることでグループワークも可能であった。オンラインに関する各種設定と当日の運用は事務局が対応してくれたため、円滑に進行できた。秋田県は広いが、交通インフラが脆弱で、移動という観点から考えるとオンライン開催にはメリットが大きい。また、痛みの治療に従事している医療者には開業している方も多い。今回は日曜日に開催したが、通常、土曜日には診察が行われているため、週末の現地開催は彼らへの負担が大きい。今後もオンライン開催の形式は残しておいた方がよいように考える。

われわれの宣伝が不十分だったため、当日の参加者は17名だったが、表1に示したとおり、職種は医師だけでなく、看護師、理学療法士、作業療法士、精神保健福祉士、柔道整復師など多様だった。

令和3年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

### 東北ブロック(秋田県)慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

**日時** 2021年11月28日(日)  
9:30~13:00(受付9:15開始)

**会場** Zoomオンライン会議システム

**参加対象** 秋田県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々  
医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・ソーシャルワーカー・介護士・その他

1. 痛みの多面的評価
2. 痛みの治療
  - 1) 薬物療法
  - 2) 運動療法
  - 3) 心理療法
3. 症例検討

参加費: 無料  
定員 30名 先着順  
※事前申込必須※

参加をご希望の方は下記(QRコード)よりお申込みください  
<https://docs.google.com/forms/d/1Jes71TauWuIlwMYGwc10JAdRkuB1WQCZ4Vxkwn8pct8/edit>

**申込期限: 2021年11月19日(金)**  
定員になり次第締め切ります



お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局  
Email: [itamizaidan@gmail.com](mailto:itamizaidan@gmail.com)

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 東北ブロック」  
秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 病態制御医学系 麻酔・蘇生・疼痛管理学講座  
【共催】一般財団法人日本いたみ財団

図2. 研修会のフライヤー

## 東北ブロック(秋田県)慢性疼痛診療研修会・申込状況

所属別		診療科別		職域別	
所属	人数	診療科名	人数	職域名	人数
秋田大学医学部附属病院	9	麻酔科	5	医師	9
秋田大学	3	整形外科	4	理学療法士	4
つつみ整形外科	1	リハビリテーション科・部	5	看護師	1
ワタナベ整骨院	1	一般外来	1	作業療法士	1
医療法人清風会 清和病院	1	医療相談室	1	精神保健福祉士	1
イムス明理会仙台総合病院	1	未記入	1	柔道整復師	1
秋田赤十字病院	1				
計	17	計	17	計	17

表1.当日の参加者

従来の本研修会の構成を踏襲して、「痛みの評価と治療」に関する4つのテーマで講義をしていただき、それに対して数名ずつに分かれてグループワーキングを行った。理解を深めてもらった後、ひとつの症例を呈示し、それぞれの立場からの評価と治療についてグループ内でさらに検討した。当日の講義内容と講師は以下のとおりである。

- ① 痛みの多元性と慢性疼痛の多面的評価(秋田大学 医学部 麻酔科 新山 幸俊 先生)
- ② 痛みの治療(1)「薬物療法」(秋田大学 医学部 麻酔科 木村 哲 先生)
- ③ 痛みの治療(2)「運動療法」(東北文教大学 人間科学部 子ども教育学科 三道 なぎさ 先生)
- ④ 痛みの治療(3)「心理療法」(星総合病院慢性疼痛センター リハビリテーション科 二瓶 健司 先生)
- ⑤ 症例検討(福島県立医科大学 疼痛医学講座 高橋 直人 先生)

最後に、15分間という短い時間ではあったが、秋田県内における慢性痛患者に対する多面的アプローチ治療体制の構築についてのグループワークを行った。

参加者の多くがその有用性と必要性を感じていたが、同時に現状では、参加者を連動させて体制を構築することが様々な事情で困難なこと、単一の施設では限界があることを認識していた。そこで、まずは人員が整っていて各職種が在籍している大学病院で慢性痛に対するチーム医療体制を構築し、その後、県内に拡大すべきという結論に至った。構築までのスケジュールなど具体的な内容は検討されなかったが、慢性痛に対する評価や集学的治療について学習することで理解を深め、さらに多職種のチームビルディングのきっかけとする上で有用な研修会であった。

1)木村 哲:本研修会における「秋田県内における慢性痛患者に対する多面的アプローチ治療体制の構築」の際のプレゼンテーション資料より抜粋

秋田大学医学部 麻酔科 新山 幸俊

# 東北ブロック(山形県・福島県)慢性疼痛診療研修会

## 東北ブロック(山形県・福島県)慢性疼痛診療研修会

日 時:2021年12月26日(日) 9:30 ~ 13:00 会 場:Zoomオンラインシステム

参加対象:山形・福島県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々

### 【企画の内容】

令和3年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業の一環として、東北地区の医療従事者等向けに、慢性の痛みの理解と診療体制の構築を目的としたZoomオンライン会議システムを用いた完全Web開催による研修会を開催いたしました。

痛みの多面的評価、痛みの治療、症例検討、の3部構成で、各分野のエキスパートによる講義、グループディスカッションにより、参加者全員が主体的に取り組める内容になっておりました。

年末かつ日曜日の開催となりましたが、定員限度枠満席の30名の参加を頂き、参加の皆様にとって大変有意義な講演会になりました。

### 【講演会の案内状】

令和3年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 東北ブロック(山形県・福島県) 慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

日時 2021年12月26日(日)  
9:30~13:00(受付9:15開始)

会場 Zoomオンライン会議システム

参加対象 山形・福島県を中心とする医療従事者、慢性痛に関連する職種の方々  
医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・公認心理師・ソーシャルワーカー・介護士・その他

1.痛みの多面的評価  
2.痛みの治療  
1)薬物療法  
2)運動療法  
3)心理療法  
3.症例検討

参加費:無料  
定員30名先着順  
※事前申込必須※

参加をご希望の方は下記(QRコード)よりお申込みください  
[https://docs.google.com/forms/d/1fA\\_GXJz17E7hx9pv8BCdaE8va01wQvVf5eFNbM4/edit](https://docs.google.com/forms/d/1fA_GXJz17E7hx9pv8BCdaE8va01wQvVf5eFNbM4/edit)

申込期限:2021年12月17日(金)  
定員になり次第締め切ります

お問合せ先:一般財団法人日本いたみ財団 事務局  
Email: [itamizaidan@gmail.com](mailto:itamizaidan@gmail.com)

【主催】厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 東北ブロック」  
山形大学医学部整形外科学講座・公立大学法人福島県立医科大学医学部疼痛医学講座  
【共催】一般財団法人日本いたみ財団



### 【参加者詳細】

#### 東北ブロック(山形県・福島県)慢性疼痛診療研修会・申込状況

所属別		診療科別		職域別	
所属	人数	診療科名	人数	職域名	人数
医療法人辰星会 樹記念病院	6	リハビリテーション科	12	医師	12
公益財団法人 星総合病院	3	看護部	5	理学療法士	8
山形大学医学部附属病院	3	整形外科	4	看護師	3
仙台ペインクリニック	2	臨床心理室	2	准看護師	2
岩手医科大学附属病院	2	外科	1	作業療法士	2
山形大学	1	脳神経外科	1	臨床心理士	2
福島県立医科大学 看護学部	1	内科	1	薬剤師	1
福島県立医科大学 会津医療センター	1	麻酔科	1	計	30
公益財団法人 会田病院	1	総合診療科	1		
日本海総合病院	1	訪問看護	1		
大原総合病院	1	薬局	1		
庄内余目病院	1	計	30		
山形市立病院済生館	1				
薬局いずみ調剤	1				
介護老健施設 ローズむらやま	1				
医療法人健友会 介護老人保健施設ひだまり	1				
社会福祉法人いわせ長寿会	1				
宝田整形外科クリニック	1				
竹林貞吉記念クリニック	1				
計	30				

県別	
県名	人数
福島県	16
山形県	10
宮城県	2
岩手県	2
計	30

# 東北ブロック(山形県)「慢性の痛みの理解と診療体制の構築に向けて」講演会

## 東北ブロック(山形県)「慢性の痛みの理解と診療体制の構築に向けて」講演会

日 時:2021年11月14日(日) 10:00 ~ 12:00 会 場:Zoomオンラインシステム

参加対象:東北地方の医療従事者、福祉、介護職、慢性痛に関連する職種の方々

### 【企画の内容】

令和3年度厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業の一環として、東北地区の医療従事者等向けに、慢性の痛みの理解と診療体制の構築を目的としたZoomオンライン会議システムを用いた完全Web開催による講演会を開催いたしました。

講演1では関節炎・関節痛について、講演2では痛みに対する集学的アプローチについて、講師の先生からわかりやすく解説頂きました。講演1では、日常遭遇する関節の腫脹や疼痛を生じる様々な疾患の鑑別について、実際の肉眼所見の写真を提示いただくことで、視覚から記憶に残る講演でありました。講演2では、慢性疼痛に対する多職種連携の重要性を、実際の患者さんへの対応方法を交えながら、系統だって講演いただきました。

日曜日の開催となりましたが、70名という多数の参加を頂き、参加の皆様にとって大変有意義な講演会になりました。

### 【参加者詳細】

東北ブロック(山形県) 「慢性の痛みの理解と診療体制の構築に向けて」講演会 申込状況

#### 所属別

所属	人数
福島県立医科大学	9
山形大学	8
公益財団法人 星総合病院	5
大原総合病院	2
済生会 山形済生病院	2
東北大学病院	2
赤石病院	2
エバーグリーンズミ	2
東京大学医学部附属病院	2
寒河江市立病院	1
みゆき会病院	1
日本海総合病院	1
山形県立新庄病院	1
すがいデンタルクリニック	1
吉岡病院	1
鶴岡協立病院	1
医療法人健友会 介護老人保健施設ひだまり	1
山形県立こころの医療センター	1
ファミリー調剤薬局	1
コスモ調剤薬局 谷地店	1
福島県立医科大学 会津医療センター	1
竹林貞吉記念クリニック	1
農村健診センター	1
南相馬市立総合病院附属小高診療所	1
無所属	1
公立藤田総合病院	1
栢記念病院	1
太田熱海病院	1
ないとうクリニック	1
国立病院機構宮城病院	1
浅沼整形外科	1
石垣記念岩沼中央整形外科	1
気仙沼市立病院	1
医療法人兀兀堂 コツコツクリニック多賀城	1
仙台市立病院	1
かねたバランス接骨院	1
医療法人社団洞口会 名取中央クリニック	1
不明	1
八戸市立市民病院	1
弘前大学医学部附属病院	1
秋田大学医学部附属病院	1
市立横手病院	1
白沢整形外科医院	1
計(3名詳細入力なし)	70

#### 診療科別

診療科名	人数
整形外科	25
リハビリテーション	24
薬剤科	3
内科	2
総合内科	1
総合診療外科	1
総合診療科	1
医療人育成・支援センター	1
健診センター	1
精神科	1
麻酔科	1
外科	1
歯科	1
看護学部	1
病棟	1
一般外来	1
整骨院	1
保健科学部	1
検査科	1
不明	1
計	70

#### 職種別

職種名	人数
医師	29
理学療法士	12
看護師	9
作業療法士	8
薬剤師	4
柔道整復師	2
鍼灸あん摩マッサージ指圧師	2
歯科医師	1
病院助教	1
大学教員	1
臨床検査技師	1
計	70

#### 県別

県名	人数
福島県	24
山形県	23
宮城県	16
青森県	2
秋田県	2
東京都	2
岩手県	1
計	70

### 【講演会の案内状】

組織損傷は治っているのに、痛みが続く...  
こんな慢性の痛みで苦しんでいる

慢性の痛みの理解と  
診療体制の構築に向けて

令和3年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

講演1  
関節炎・関節痛の鑑別診断  
山形大学医学部整形外科学講座  
教授 高木 理彰 先生

講演2  
集学的アプローチによる  
痛み治療  
公益財団法人 星総合病院  
慢性疼痛センター  
副センター長 高橋 直人 先生

令和3年  
11月14日(日) 10:00~12:00  
(9:45受付開始)

Zoom 開催

参加申し込み [https://docs.google.com/forms/d/1YwdV9Nw...  
U5Ww2GVMYGoZmymgUzQ2G3CjyRkR1Ew/edit](https://docs.google.com/forms/d/1YwdV9Nw...)

申込期限 11月8日(日)まで ※お申し込み受付後、登録アドレスに告知URLを  
お送りいたします。(9:45受付開始)

対象 東北地方の医療従事者、福祉、介護職  
その他慢性疼痛に携わるすべての職種

お問い合わせ先 公立大学法人 福島県立医科大学医学部疼痛医学講座 (担当:高橋)  
TEL&FAX 024-581-5547 E-mail kozumage@fmu.ac.jp

参加費  
無料

# 令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業宮城地区 慢性疼痛診療研修会報告

## 令和3年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業宮城地区 慢性疼痛診療研修会報告

令和3年11月3日10:00～15:30 日本いたみ財団共催

多職種多診療科対象の慢性疼痛診療研修会を11月3日開催した。当日の参加者は、医師6名(整形外科3名、内科1名、外科1名、麻酔科1名)、歯科医師8名、理学療法士5名、公認心理師(臨床心理士)2名、薬剤師1名の22名であった。今回から歯科医師にも広く声をかけたため、東北地区の慢性疼痛診療研修会としては初の歯科医師の参加となった。

研修会の内容は、この事業の説明およびグループに分かれてのアイスブレイクの後

- 1.慢性疼痛の分類と多面的評価:東北医科薬科大学医学部整形外科学 小澤 浩司 先生
- 2.慢性疼痛の運動療法:仙台ペインクリニック理学療法士 大友 篤 先生
- 3.慢性疼痛の心理アセスメント:東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科 武村 尊生 先生
- 4.慢性疼痛の薬物療法:仙台ペインクリニック麻酔科 伊達 久
- 5.症例検討:星総合病院慢性疼痛センター 高橋 直人 先生

最後に、日本いたみ財団のいたみマネージャーについて広報を行った。

研修会前後で、慢性の痛み政策研究事業「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」で作成した「慢性痛に関する教育効果の評価尺度」を用いてその効果を行った。

知識尺度に関しては23項目の質問があり「正しい」「間違い」「わからない」の3択で回答したが、研修会前後で正解に結びつくことができるようになった項目が多かった。また研修会前に「わからない」が合計65個あったのに対して、研修会終了後の回答では21個と激減した。研修会終了後の回答でも「わからない」が多かった項目としては薬物療法に関するものが多く、医師や歯科医師以外には理解が十分ではなかった。30分という限られた時間では薬物療法全般の十分な理解を得ることは難しい可能性がある。

また、終了時のフリーコメントで多かった項目は

### 1.良かった点

多職種の人とディスカッション出来たことが良かった  
自分の職種以外のいろんな考え方がわかって良かった  
講演だけでなく直接討論できたことが良かった

### 2.改善して欲しい点

もう少し基礎的な知識も入れて欲しい  
グループディスカッションの時間がもっとあれば良かった  
レジメがあれば良かった

などであり、例年と同様にグループディスカッションが好評であった。

この研修会終了後に日本いたみ財団の「いたみマネージャー」に応募してくれた方が多かったのもこの研修会の大きな成果であった。

(仙台ペインクリニック 伊達 久)

令和3年度 厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

## 慢性疼痛診療研修会

明日からの慢性疼痛診療に役立つ評価法と治療法を学び、グループディスカッションを行います。  
慢性痛に興味のある方は、是非お気軽にご参加ください。

日時 令和3年11月3日(祝・水) 10:00～15:10

場所 Zoom 開催(サイトオープン 9:30)  
※参加の際にはzoom推奨環境をご確認ください

### 宮城県内 医療従事者

医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師

### 研修会プログラム

1. 慢性疼痛の分類と多面的評価
2. 慢性疼痛の運動療法
3. 慢性疼痛患者の心理アセスメント
4. 慢性疼痛の薬物療法
5. 症例提示

参加費無料  
定員30名



参加申込

URL: <https://forms.gle/TELZAD8M2DKL8HT26>

申込期限10月27日まで 定員になり次第締め切ります

お問合せ先: 一般財団法人日本いたみ財団 事務局

Email: [itamizaidan@gmail.com](mailto:itamizaidan@gmail.com)

主催: 厚生労働省「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 東北ブロック」  
共催: 一般財団法人日本いたみ財団

## 仙台痛みのフォーラム

同じ臨床家でも専門が異なるとアップデートの話題についていけない。ましてや基礎と臨床では、同じ痛みに関連して仕事していても全く知らないことがある。自分たちの分野では今は常識でも、専門が異なると全くわからないことや古い知識しか知らないことがある。仙台痛みのフォーラムは、専門分野が違う痛みの専門家が集まって自由に討論する集まりである。2017年、ある研究会の懇親会の雑談がきっかけで企画された勉強会である。医師が関与する勉強会では、製薬メーカーなどのバックアップで行うことが多い。しかし昨今製薬メーカーが関与する勉強会では自由な発言が制限される。そのため、メーカーなどのバックアップなしに、自分たちで会場を確保し、自分たちで開催するというとても自由な会である。メーカーの資金援助はないが、逆にメーカーの意向を気にすることなく、公平な立場で自由に討論できるのが特徴である。

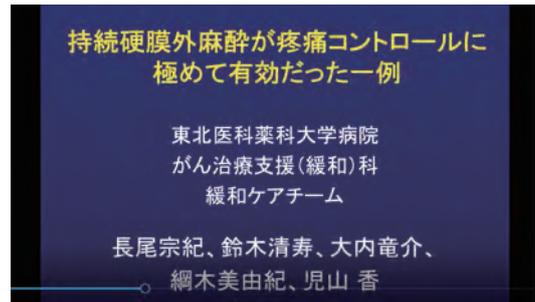
現在参加しているのは、東北医科薬科大学薬学部(基礎医学)、東北大学緩和医療科(緩和医療)、東北医科薬科大学病院がん治療支援科(緩和医療)、東北福祉大学(臨床心理)、仙台ペインクリニック(ペインクリニック)の5施設である。他には、東北労災病院や宮城県立がんセンター、国際医療大学などからも参加してもらっている。2020年度からはCovid19の影響で一時的に勉強会が中断したが、その後WEB開催という方法で再開している。勉強会後の懇親会がなくなったのだけが残念だが、またリアルで再会できる日を楽しみにしている。

### 第14回 仙台痛みのフォーラム(WEB開催) 2021年5月25日 19:00～20:30

演題名: 持続硬膜外麻酔が疼痛コントロールに極めて有効だった一例

演者: 東北医科薬科大学がん診療支援チーム

座長: 東北大学緩和医療学分野 井上 彰 先生



### 第15回 仙台痛みのフォーラム(WEB開催) 2021年8月19日 19:00～20:30

演題名: 定量的感覚検査QSTについて

演者: 仙台ペインクリニック 埜口 千里 先生

座長: 国際医療大学 麻酔科学講座 河野 達郎 先生



### 第16回 仙台痛みのフォーラム(WEB開催) 2022年1月25日 19:00～20:30

演題名: これからの時代に求められる予後予測

演者: 竹田総合病院 緩和医療科 平塚 裕介 先生

座長: 東北医科薬科大学がん診療支援科 児山 香 先生



今後も定期的には開催予定である。以前のようにみんなで議論を戦わせる日が早く来ることを祈るだけである。

(仙台ペインクリニック 伊達 久)

# リハビリテーション職種のための慢性疼痛診療 講習会・研修会 活動報告

仙台ペインクリニック リハビリテーション科 理学療法士 大友 篤

## はじめに

今回、慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 東北地区の活動として、東北地区のリハビリテーション職種に限定し、慢性疼痛の病態を理解し、同職種連携(地域で取り組んでいる慢性疼痛診療を理解する)を目的とし、全国初であるリハビリテーション職種(以下リハ職種)にむけた講習会と研修会を開催したため以下に報告する。

## 1. 東北ブロックリハビリテーション職種のための慢性疼痛診療 講習会

日 時: 2021年11月7日(日) 13:30 ~ 15:30 会 場: Zoomオンラインシステム

配 信 元: PARM-CITY131ビル5階B会議室 参加対象者: 東北県内のリハビリテーション職種

参 加 者: 94名(事前申し込み115名)

県別	人数	参加施設	施設数	職種別	人数
青森県	23	医療機関	75	医師	2
岩手県	9	介護施設	6	理学療法士	76
秋田県	4	教育機関	3	作業療法士	12
山形県	18	整骨院	1	柔道整復師	2
宮城県	24	リハビリテーションセンター	4	不明	2
福島県	13	健康福祉局	1	計	94
長野県	1	在宅療養支援診療所	1		
不明	2	訪問看護ステーション	1		
計	94	不明	2		
		計	94		

## プログラム

講義 I 「慢性疼痛の治療」 仙台ペインクリニック院長/医師 伊達 久

講義 II 「慢性疼痛患者に対する検査・測定」 仙台ペインクリニック/理学療法士 大友 篤

講義 III 「慢性疼痛患者に対する集学的アプローチ～理学療法士の立場から～」

星総合病院 慢性疼痛センター/理学療法士 二瓶 健司

## 所見

今回の講習会では、東北地区の94名と数多くのリハ職種が集まった。リハ職種が普段臨床での関わりが薄い薬物療法について伊達氏から説明された。また、二瓶氏からは、慢性疼痛センターでの実際の取り組み、慢性疼痛患者の捉え方など明日の診療につながる内容であった。

厚生労働省 令和3年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (東北地区)

### リハビリテーション職種のための慢性疼痛診療 講習会

開催日時 2021年 11月 7日(日) 13:30~15:30 ※13:00 開場

開催形式 オンライン開催 (ZoomウェビナーによるWEBライブ配信)

対 象 東北圏内の理学療法士・作業療法士などリハリストッフ

**プログラム**

- 講義 I 『慢性疼痛の治療』  
仙台ペインクリニック 院長 / 医 師 伊達 久
- 講義 II 『慢性疼痛患者に対する検査・測定』  
仙台ペインクリニック / 理学療法士 大友 篤
- 講義 III 『慢性疼痛患者に対する集学的アプローチ～理学療法士の立場から～』  
星総合病院 慢性疼痛センター / 理学療法士 二瓶 健司

事前参加申込 - 必須 -  
参加費 - 無料 -

参加申込方法 以下のフォームより事前参加申込みをお願いします。  
<https://forms.gle/TLkFjJHDwppvYzXL7>

参加申込期間 2021年 10月 31日(日) まで

アクセス方法につきましては、参加申込後、別途メールにてご案内させていただきます

お問い合わせ先 運営事務局 | 仙台ペインクリニック (仙台 伊達・大友) \*事務局 E-Mail: info@painclinic.jp  
TEL: 022-238-1310 (事務局代表)

主催 厚生労働省 令和3年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (東北地区)

## 2.東北ブロックリハビリテーション職種のための慢性疼痛診療 研修会

日 時:2021年12月19日(日) 10:00～15:30 会 場:Zoomオンラインシステム

配信元会場:PARM-CITY131ビル5階B会議室

参加対象者:東北県内のリハビリテーション職種

参加者:34名(事前申し込み51名)

県別	人数	参加施設	施設数	職種別	人数
青森県	8	医療機関	26	理学療法士	26
岩手県	4	介護施設	4	作業療法士	8
秋田県	0	教育機関	1	計	34
山形県	5	リハビリテーションセンター	2		
宮城県	4	訪問看護ステーション	1		
福島県	13	計	34		
計	34				

### プログラム

講義Ⅰ「慢性疼痛の治療」 仙台ペインクリニック／医師 伊藤 裕之

講義Ⅱ「慢性疼痛患者に対する検査・測定」

八戸市立市民病院／理学療法士 石村 慶太

講義Ⅲ「慢性疼痛患者に対する運動療法」

星総合病院慢性疼痛センター／理学療法士 二瓶 健司

講義Ⅳ「認知行動療法」 仙台ペインクリニック／理学療法士 麻野 千穂

講義Ⅴ「症例検討」 仙台ペインクリニック／理学療法士 大友 篤

※講師以外グループディスカッションのファシリテーター 7名

アンケート:知識・困難・地域尺度についてのアンケートを研修会前後に実施した。回収率97%

### 所見

今回の研修会講師、ファシリテーターは、日ごろ東北地区で慢性疼痛診療に携わっている理学療法士であった。また、参加者も東北地区リハ職種限定としオール東北で同職種連携を図る目的で研修会が行われた。今回のアンケート結果から3つの尺度の解析を行なった。

- 知識尺度(事前・後テスト)について 研修前では、テストの結果で正解率7割以下の問いは、「慢性疼痛の定義」、「CRPSについて」であり、正解率5割以下の問いは「慢性疼痛の分類」「慢性痛の問診」の項目であった。特に正解率が悪かった3割以下の問いは「頭痛について」と「薬物について」であった。しかし、研修後テストでは、正解した参加者の割合は多くなった。
- 困難尺度(事前アンケートのみ)について 全ての項目(慢性疼痛に対する基礎知識、評価、目標設定、治療、他職種連携、患者の家族への対応など)で、慢性疼痛診療にリハ職種が苦渋している現状であった。
- 地域尺度(事前・後アンケート)について 「各施設が提供する慢性痛の治療内容が分かる」、「地域で慢性痛患者に関わっている人の名前と顔、考え方が分かる」、「地域で慢性痛患者に関わっている施設の理念や事情が分かる」の3つの項目で、事前アンケートでは、「そう思わない」と返答した割合が多かったが、事後では、「そう思う」と回答した参加者の割合が多くなった。また、事前「そう思わない」が事後「そう思う」に変化した割合に有意差が認められた。
- 研修後の感想:自由記載(一部記載) ・痛みに対する考え方が変わった。・具体的な検査方法や症例を通じてどのように介入していけば良いかが理解できた。・認知行動療法や評価尺度について学べました。・グループディスカッションはよい。・グループディスカッションの時間が短い。

以上の結果から、今回の研修会を開催して、リハ職種はやはり普段携わることが少ない薬物に対しての知識が不足していること、慢性疼痛患者の診療に困っていること、さらには困っていることを誰に相談したらよいかかわからないという慢性疼痛に関わるリハ職種の問題点を把握することができた。また、研修後の知識面の正答率が上がったことから、これからも慢性疼痛診療に対する教育が必要なことを改めて実感した。このような研修会の講義やグループディスカッションは、知識以外に地域で慢性疼痛に関わっているリハ職種が在籍している施設を把握できたり、他施設での取り組みなど理解できたりと地域での慢性疼痛診療体制・治療についての情報の共有ができ、慢性疼痛診療ネットワーク構築に貢献できたのではないかと感じた。今後は東北ブロックでリハ職種に向けた研修会を継続し同職種連携を目的に参加者に頂いた意見を考慮し、よりより研修会を企画し開催したいと思う。



# 歯科医師のための慢性疼痛診療講習会・研修会報告

東北大学大学院歯学研究科 病態マネジメント歯学講座 歯科口腔麻酔学分野  
教授 水田健太郎

本年度、歯科医師を対象とした職域限定の慢性疼痛診療講習会・研修会を全国に先駆けて実施した。その概要について報告する。

## 1. 講習会「歯科医師のための慢性疼痛診療講習会」(担当:水田健太郎)

日時:令和3年11月7日(日曜日) 10:00~12:30 会場:オンライン(Zoom)

対象:歯科医師

募集方法:東北6県の県・郡・市歯科医師会、歯科大学、医学部に案内を郵送

### プログラム

•10:00~10:05 開会の挨拶

水田健太郎(東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野)

•10:05~10:40 「痛み全般の基礎知識」 伊達 久(仙台ペインクリニック)

•10:40~11:30 「口腔顔面痛総論」 佐々木啓一(東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野)

•11:30~12:30 「口腔顔面痛の臨床」 千葉 雅俊(東北大学病院 歯科顎口腔外科)

•12:30~12:35 開会の挨拶 伊達 久(仙台ペインクリニック)

伊達氏は慢性疼痛診療の初学者向けに、痛み全般の基礎知識について平易な言葉で簡潔に説明された。

佐々木氏は口腔顔面痛の基礎知識について、元日本口腔顔面痛学会理事長のご経験も踏まえて分かりやすくお話しされた。

千葉氏は長年に渡る豊富な診療経験をもとに、口腔顔面痛の診断と治療について自験例を交えながらわかりやすく解説された。

本講習会は日本口腔顔面痛学会、及び東北大学病院口腔内科リエゾンセンターの共催で行った。日本口腔顔面痛学会のポイント取得対象講習会としたこともあり、東北一円から120名あまりの参加者があり、反響が大きかった。東北地区の口腔顔面痛診療の基盤づくりに向けて大きな一歩が踏み出せたと考えている。

The poster provides detailed information about the seminar. It includes the title '歯科医師のための慢性疼痛診療講習会', the date and time '2021年11月7日(日) 10:00~12:00', and the format 'オンライン開催 (ZoomウェビナーによるWEBライブ配信)'. The target audience is '東北圏内の歯科医師'. The program is organized by '東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野' and '水田 健太郎'. The topics are: 1. '痛み全般の基礎知識' by 伊達 久, 2. '口腔顔面痛総論' by 佐々木 啓一, and 3. '口腔顔面痛の臨床' by 千葉 雅俊. The application method is via a Google Form, and the deadline is '2021年10月31日(日)まで'. A QR code is provided for registration. The poster also lists the organizing institutions: 仙台ペインクリニック, 厚生労働省 令和3年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 (東北地区), and 日本口腔顔面痛学会.

## 2. 研修会「歯科医師のための慢性疼痛診療研修会」(担当:水田健太郎)

日 時:令和4年2月6日(日曜日) 10:00~15:30 会 場:オンライン(Zoom)

対 象:歯科医師

募集方法:東北6県の県・郡・市歯科医師会、歯科大学、医学部に案内を郵送

### プログラム

- 10:00~10:05 開会の挨拶 水田健太郎(東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野)
- 10:05~10:15 アイスブレイク
- 10:15~11:00 講義I「口腔顔面領域の慢性疼痛 総論」  
佐々木啓一(東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野)
- 11:00~11:50 講義II「口腔顔面痛の検査・診断」 廣谷 拓章(大崎市民病院 歯科口腔外科)
- 12:50~13:40 講義III「口腔顔面痛の治療I」 樋口 景介(仙台市立病院 歯科口腔外科)
- 13:40~14:25 講義IV「口腔顔面痛の治療II」 坂本 英治(九州大学病院 顎顔面口腔外科)
- 14:25~14:35 休憩、ストレッチ
- 14:35~15:20 「症例検討」 千葉 雅俊(東北大学病院 歯科顎口腔外科)
- 15:20~15:30 質疑応答
- 15:30 閉会の挨拶

### ファシリテータ【50音順】

- \* 飯田 崇(日本大学松戸歯学部 口腔健康科学講座 顎口腔機能治療学分野)  
井筒 崇司(山形県立中央病院 歯科口腔外科)
- \* 今村 佳樹(日本大学歯学部 口腔診断学講座)  
小川 徹(東北大学大学院歯学研究科 口腔システム補綴学分野)
- \* 小見 山道(日本大学松戸歯学部 口腔健康科学講座 顎口腔機能治療学分野)  
庄司 憲明(東北大学大学院歯学研究科 歯科医用情報学分野)
- \* 築山 能大(九州大学大学院歯学研究院 歯科医学教育学分野)
- \* 土井 充(広島大学医系科学研究科 歯科麻酔学教室)  
樋口 景介(仙台市立病院 歯科口腔外科)  
廣谷 拓章(大崎市民病院 歯科口腔外科)  
星島 宏(東北大学大学院歯学研究科 歯科口腔麻酔学分野)
- \* 松香 芳三(徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学分野)
- \* 村岡 渡(川崎市立井田病院 歯科口腔外科)  
安田 真(東北大学病院 歯科麻酔疼痛管理科)
- \* 和嶋 浩一(慶應義塾大学医学部 歯科口腔外科学教室 非常勤)

(\* 日本口腔顔面痛学会からご協力いただいた先生)

本研修会では日本口腔顔面痛学会から8名のファシリテータにご協力いただいた。Zoomでの研修会を円滑に実施するため、会に先立ち演者打ち合わせを1回、演者・ファシリテータ打ち合わせを計3回行い、全体の流れ、方向性を事前にすり合わせした。

研修会では参加者48名を3~4名ずつ15グループに編成し、各講義毎にZoomのブレイクアウトルーム機能を用いてグループディスカッションを行うこととした。

佐々木氏は、本モデル事業の説明、痛み全般の基礎知識、日本口腔顔面痛学会の取り組みについてお話しされた。グルー

プディスカッションでは、参加者がこれまでに経験した症例についてフリーディスカッションを行った。

廣谷氏は、国際口腔顔面痛分類をもとに、問診、検査、診断の手順について分かりやすく解説された。グループワークでは症例を提示し、問診、検査、診断方法について各グループでディスカッションを行った。

樋口氏は、口腔顔面痛の治療のうち薬物療法にフォーカスをおいてお話しされた。グループワークでは症例を提示し、投薬すべき薬剤についてディスカッションを行った。

坂本氏は、非薬物療法、特にブロック治療、リハビリテーション、心理アプローチについて概説された。グループワークでは症例を提示し、痛みの心理アプローチについてディスカッションを行った。

千葉氏は、問診、検査、診断、治療の一連の流れについて、症例を提示し、各グループで3度にわたりグループワークを行った。

各グループではファシリテータとの活発な議論がなされたが、参加者からは「もっと時間が欲しかった」との意見も多く頂いた。また、今回の参加者は口腔顔面痛治療の臨床経験が乏しい方が多かったようで、「研修会の内容について行けない」との意見も頂いた。今回の経験をもとに、来年度以降はベーシックコースとアドバンスコースに分けた講習会・研修会の開催を企画していきたいと考えている。



# 「動機づけ面接」講演報告

福島県の活動として、札幌学院大学人文学部の北田雅子先生と東京大学病院麻酔科痛みセンターの笠原諭先生を講師に迎え、「動機づけ面接」講演会を実施いたしました。今回がモデル事業における通算4回目の講演会開催となります。今年度は121名の事前申し込みがありました。講義内容については、講師の北田先生、笠原先生にお取り計らい頂き、初めて参加される方にも参加経験のある方にも理解の深まる講演をして頂きました。参加された皆様からは、「勉強になった」という感想の他、「具体的な症例を通じてさらに詳しく教えて欲しい」、「また定期的に開催してほしい」といったご希望を多々頂きました。実践の場での患者様への受け答えを振り返り、講演会で得た知識や方法を現場で活かすための学びの機会にさせていただけたのではないかと思います。(運営事務局)

## \*参加者から寄せられた感想(一部抜粋)\*

- 1 面接方法に関する講演は大変勉強になります。症例などを通してさらに教えていただきたいです。ありがとうございました。
- 2 私は精神科に勤務します。患者さんとかかわり(面接)の中で導入したいポイントが多かったです。今回、CBTやMIについて興味を持ちました。
- 3 いつも新鮮に聞いています。つまり、いざとなると臨床に生かしておらず、反省するばかりです。今後開催してほしい企画として、困っている患者さんに関して参加者がプレゼンし、それについて専門的な考察とアドバイスをする企画などもあるといいな、と思います。事前にプレゼンの内容を送るなどして。
- 4 自分の面談を振り返りながら聴講させて頂きました。自身のマインドセットとチェンジトークのポイントが重要であったと感じました。先生方のような慢性疼痛に理解があり診断や治療方針までが一貫しているチームにおいてこの面談は生かされるのだらうとも感じました。チームを作り上げるためのポイントや仕組み、ノウハウなどの研修もあとより実践的に臨床に挑めるかなと思いました。ありがとうございました。
- 5 具体的な事例や例え話などがたくさん盛り込まれていたのも、とてもわかりやすく勉強になりました。慢性疼痛患者以外でも応用できそうなエッセンスもあり、様々な職種や領域の方にも聞いて欲しいという印象を持ちました。今後の開催希望としては、職種ごとの動機づけ面接の手法やチームとしての具体的な実践方法などをワークできる機会があればと思います。本日はありがとうございました。
- 6 大変参考になりました。明日からの面接で利用していきたいです。
- 7 大変興味深い講演をありがとうございました。心理師という立場から拝聴し、自身のこれまでの経験(心理面接の在り方)が整理され、また新しい視点を得る大変貴重な時間となりました。動機づけ面接自体も現在進行形で発展しているというお話があったので、今後も年1回のペースなどで今回のような講演をしていたら、新しい知見等をご教示いただければ幸いです。
- 8 笠原先生、北田先生講演は2度目です。就労移行支援の利用者さんに対して日々MIを実践しております。まだまだ日が浅く最近ようやく正しい反射を抑え、「花束を贈る」ところまで自然に行えるようになったと感じております。チェンジトーク以降が私の課題です。今回の講演も改めて自身に深く刻まれたと感じております。今後も参加したいと思っております。実践的な研修などありましたら、ぜひお願いいたします。本日はありがとうございました。
- 9 自分を振り返ってみるためにも、臨床で患者に対し実践してみるにしても、何度も見直したい内容でした。参考となる書籍や文献の提示は有難いと思えました。
- 10 笠原先生・北田先生のご講義大変ありがとうございました。臨床での話も交えながらイメージしやすかったです。日々の会話も雑談で終わらせるのではなく、相手の気持ちを軽くする、行動変容に繋がれるような言葉掛けをしていきたいと思っております。



- 11 大変すばらしい内容のご講演でした。特に笠原先生の講演は、慢性疼痛患者への対応に限らず、さまざまな場面で応用できるのでは、ということを考えておりました。一つ質問したいことがあります。「大サビ」のところで自分が受け取った(あるいは想像した)相手の価値観を伝えるときに、間違ってしまったらどうなりますか? 「あなたは〇〇な母親になりたいのですね」という発言に反発されることもあるのでは? という心配があります。患者に「違います」と言われたらそこから関係を構築しなおす、ということでしょうか?
- 12 貴重な講演ありがとうございました。当院でリハビリをされている患者様の中にも、関心期から準備期への移行に難渋する方は多く、自分が患者様の抱く不安などをしっかりと理解できていないのだと改めて感じました。本講演の先生方に提示していただいた会話の例なども参考にしながら、患者様に共感し思いを引き出せるような会話を心がけたいと思います。
- 13 とても興味深い講演ありがとうございました。実際に慢性疼痛の患者さんを他の専門病院等に紹介したいと思ったときにどこにお願いしたらいいか紹介先がわかればいいなと思いました。
- 14 笠原先生と北田先生の慢性疼痛に対する動機づけ面接のご講演は他の会を含めて何度か参加させていただいており、毎回、目から鱗の剥かれるような内容でとても楽しみにしております。参加の度に内容がより具体的に実践的になっているように感じられ、とても勉強になります。自分は鍼灸師として病院に勤務しております。疼痛コントロールに難渋している患者さんの目先を変える目的で外来医師よりご紹介いただくケースも多いのですが、職業的に痛みと共に感じない施術が成立しない、患者さんと接する時間が長いといった特徴から早期に信頼関係を築きやすく、余程の失敗をしない限り、割と早い段階から会話の中で患者さんの両個性やチェンジワードに触れる機会があるように感じます。疼痛管理におけるゴールの設定やセルフマネジメント、集学的アプローチの重要性をスムーズに患者さんにご理解いただくためにも、日々の臨床で動機づけ面接的な会話にチャレンジしておりますが、集中力の要る施術をしながらですと、その瞬間にそれに気付けるか、生かせるかがとても大変で、あとからあすればよかったかと思ひ悩むことが多々あります。ただそういったことを知り得たのは先生方のご講演に参加できたことがきっかけで大変感謝しております。動機づけ面接法の概念自体もどんどんアップグレードされているとのことですので、できればオンラインで定期的に開催していただけますことを期待しております。
- 15 来年と言わず半年後に開催してほしい
- 16 有用な時間を提供していただき、ありがとうございました。今後、患者さんの体験談をお聞きできる機会を期待しています。
- 17 今後仕事において活用していける内容だったので、また研修参加させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。
- 18 大変勉強になりました。少しでも自分の診療に活かせるよう精進したいと思っております。